

心灵鸡汤双语读物

中日对照版



あなたの一生に大きな
感動を与えた日本語

感动你一生的 日文——经典美文

寇祺明 编著



中国对外翻译出版公司

I313.11
K797.1/4

あなたの一生に大きな
感動を与えた日本語

感动你一生的 日文——经典美文

寇棋明 编著



中国宇航出版社

· 北京 ·

版权所有 侵权必究

图书在版编目(CIP)数据

感动你一生的日文:经典美文/寇祺明编. —北京:
中国宇航出版社, 2006. 8

ISBN 978-7-80114-268-0

I. 感... II. 寇... III. ①小说—作品集—日本
②散文—作品集—日本 IV. I 313.11

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2006)第 050564 号

策划编辑 凌 子 封面设计 异类设计工作室
责任编辑 凌 子 责任校对 于 慧

出 版 社 中国宇航出版社

社 址 北京市阜成路 8 号 邮 编 100830
(010)68768548

网 址 www.caphbook.com/www.caphbook.com.cn

经 销 新华书店

发行部 (010)68371900 (010)88530478(传真)
(010)68768541 (010)68767294(传真)

零售店 读者服务部 北京宇航文苑
(010)68371105 (010)62529336

承 印 北京智力达印刷有限公司

版 次 2006 年 8 月第 1 版 2007 年 3 月第 3 次印刷

规 格 880×1230 开 本 48

印 张 6 字 数 194 千字

书 号 ISBN 978-7-80144-268-0

定 价 15.80 元

本书如有印装质量问题,可与发行部调换

前言

“读万卷书，行万里路”。

一本好书，一篇美文，总会让您从中学习到很多东西，犹如游历一样，使人开阔眼界，增长知识。尤其是在阅读原版外国文学的时候，更能帮助我们了解异国风土人情、文化习俗，乃至他们的思维方式、见解观念，以及如何面对现实生活的启示。当然，用日汉对照的方式来读，既学内容又学语言，更是一箭双雕。这正是我们编选本套书的一个主要目的。

本套丛书是专为大中学生及日语爱好者而设计的双语心灵读物。共三个分册，即《感动你一生的日文——爱与人生》，《感动你一生的日文——经典美文》，《感动你一生的日文——杂文百感》。其中《爱与人生》多节选于日本小说与散文，讲述的是爱与人生的哲学与思想，或许能让您有所感悟；《经典美文》多节选自世界文学名著的日文版，从中你可以发现很多已被您熟知的篇章；《杂文百感》多选自各种杂文、小品文，清新别致，读来或许令您别有一番体味。

本套丛书尽量做到所收篇目均为脍炙人口的名篇佳作和时下流行的文学作品。无论是大地风物的描绘还是

社会生活的写照,无论是时代声音的记录还是人生情感的抒写,可让您获得一些愉悦和美的享受;可让您在一种优美的语言交融中不知不觉地体会到日语水平的提升和长进;让您的一天沉浸在美好的语言韵律中;让您刚刚读过的优美篇章、精彩句子在慢慢积累、消化、吸收中,成为自己的知识。

本丛书在编写的过程中,得到了于慧小姐和西岛美织小姐的大力帮助,在此表示感谢。

一个故事可以影响一个人的一生,一个哲理可以改变千万人的命运。谨以本套丛书献给那些深爱家人与朋友、有追求、有梦想、有渴望、对生活有激情、对日语学习有热情的兄弟姐妹们。

编者

2006年7月

于北京公寓

目 录

1. 羅生門
 罗生门 (1)
2. 孔乙己
 孔乙己 (6)
3. マッチ売りの少女(一)
 卖火柴的小女孩(一) (11)
4. マッチ売りの少女(二)
 卖火柴的小女孩(二) (16)
5. マッチ売りの少女(三)
 卖火柴的小女孩(三) (21)
6. 浦島太郎(一)
 浦島太郎(一) (25)
7. 浦島太郎(二)
 浦島太郎(二) (29)

8. ボヴァリー夫人(一)	
包法利夫人(一)	(33)
9. ボヴァリー夫人(二)	
包法利夫人(二)	(38)
10. 三匹の子ぶたのお話(一)	
三只小猪的故事(一)	(43)
11. 三匹の子ぶたのお話(二)	
三只小猪的故事(二)	(49)
12. 盗んだ書類	
被窃的文件	(55)
13. ジェイン・エア(一)	
简爱(一)	(62)
14. ジェイン・エア(二)	
简爱(二)	(67)
15. チャタレイ夫人の恋人(一)	
查太莱夫人的情人(一)	(72)
16. チャタレイ夫人の恋人(二)	
查太莱夫人的情人(二)	(77)

17. チャタレイ夫人の恋人(三)
查太莱夫人的情人(三) (81)
18. ボヘミアの醜聞
波希米亚丑闻 (86)
19. 罪と罰
罪与罚 (92)
20. セロ弾きのゴーシュ
弹大提琴的高修 (98)
21. ノルウェーの森(一)
挪威的森林(一) (104)
22. ノルウェーの森(二)
挪威的森林(二) (112)
23. ノルウェーの森(三)
挪威的森林(三) (119)
24. ノルウェーの森(四)
挪威的森林(四) (125)
25. 世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド
世界尽头与冷酷仙境 (132)

26. 脂肪の塊(一)

羊脂球(一) (138)

27. 脂肪の塊(二)

羊脂球(二) (144)

28. 魔の沼(一)

魔沼(一) (150)

29. 魔の沼(二)

魔沼(二) (156)

30. スカーレット・レター(緋文字)

紅字 (161)

31. 青ひげ

藍胡子 (167)

32. 気球旅行の五週間

気球旅行五星期 (173)

33. 三四郎

三四郎 (182)

34. 小さき者へ

给孩子们 (189)

35. ダロウェイ夫人
 达洛卫夫人…………… (196)
36. 高慢と偏見
 傲慢与偏见…………… (203)
37. 水仙月の四日
 水仙月四日…………… (211)
38. 二都物語
 双城记…………… (218)
39. 夢十夜・第三夜(一)
 梦十夜・第三夜(一)…………… (223)
40. 夢十夜・第三夜(二)
 梦十夜・第三夜(二)…………… (227)
41. オリヴァ・トウイスト
 雾都孤儿…………… (232)
42. 黒いチューリップ(一)
 黑郁金香(一)…………… (239)
43. 黒いチューリップ(二)
 黑郁金香(二)…………… (245)

44. 王妃マルゴ

玛戈王后 (252)

45. 詩集 ギタンジャリ(一)

诗集・吉檀迦利(一) (258)

46. 詩集 ギタンジャリ(二)

诗集・吉檀迦利(二) (261)

47. 凧(一)

风筝(一) (264)

48. 凧(二)

风筝(二) (269)



1. 羅生門

罗生门



ある日の^ひ暮方^{くれがた}の事^{こと}である。一人^{ひとり}の下人^{げにん}が、羅生門^{らしょうもん}の下^{した}で雨^{あま}やみを待^まっていた。

広い門の下^{した}には、この男^{おとこ}のほか^{だれ}に誰もいない。ただ、所^{ところ}々^{ところ}丹塗^{にぬり}の剥^はげた、大^{おお}きな円^{まる}柱^{ばらし}に、蟋蟀^{きりぎりす}が一匹^{いっぴき}とま^まっている。羅生門^{らしょうもん}が、朱雀大路^{すざくおおじ}にある以上^{いじょう}は、この男^{おとこ}のほか^{あま}にも、雨^いやみをする市女笠^{いちめがさ}や揉烏帽^{もみえぼ}

しが、もう二三人^{にさん}はありそうなものである。それが、この男^{おとこ}のほかには誰^{だれ}もいない。

何故^{なぜ}かと云うと、この二三年^{にさんねん}、京都^{きょうと}には、地震^{じしん}とか辻風^{つじかぜ}とか火事^{かじ}とか饑饉^{うきん}とか云う災^いがつづいて起^{おこ}った。そこで洛中^{らくちゅう}のさびれ方^{かた}は一通^{ひととお}りではない。旧記^きによると、仏像^{ぶつぞう}や仏具^{ぶつぐ}を打碎^{うちくだ}いて、その丹^にがついたり、金銀^{きんぎん}の箔^{はく}がついたりした木^きを、路^{みち}ばたにつみ重^{かさ}ねて、薪^{たきぎ}の料^{りょう}に売^うっていたと云う事^{こと}である。洛中^{らくちゅう}がその始末^{しまつ}であるから、羅生門^{らしやうもん}の修理^{しゅうり}などは、元^{もと}より誰^{だれ}も捨て^すて顧^{かえり}みる者^{もの}がなかった。するとその荒^あれ果^はてたのをよい事^{こと}にして、狐狸^{こり}が棲^すむ。盗人^{ぬすびと}が棲^すむ。とうとうしまいには、引取^{ひきと}り手のない死人^{しにん}を、この門^{もん}へ持^もって来^きて、棄^すてて行^いくと言^いう習^{しゅう}慣^{かん}さえ出^で来^きた。そこで、日^ひの目^めが見^みえなくなると、誰^{だれ}でも気^き味^みを悪^{わる}るがって、この門^{もん}の近所^{きんじよ}へは足^{あし}ぶみをしない事^{こと}になつてしまつたのである。

その代^{かわ}りまた鴉^{からす}がどこからか、たくさん集^{あつ}ま^まって来^きた。昼間^{ひるま}見ると、その鴉^{からす}が何^{なん}羽^わとなく輪^わをえが^えいて、高^{たか}い鷗尾^{しび}のまわりを啼^なきながら、飛^とびまわっている。こと^{こと}に門^{もん}の上^{うわ}の空^{そら}が、夕^{ゆう}焼^やけであかくなる時^{とき}には、それがごま^{ごま}をまいたようにはつきり見^みえた。鴉^{からす}は、勿^{もちろん}論^{ろん}、門^{もん}



の上にある死人の肉を、啄みに来るのである。——
もっとも今日は、刻限が遅いせいか、一羽も見えない。
ただ、所々、崩れかかった、そうしてその崩れ目に長い草のはえた石段の上に、鴉の糞が、点々と白くこびりついているのが見える。下人は七段ある石段の一番上の段に、洗いざらした紺の襖の尻を据えて、右の頬に出来た、大きな面皰を気にしながら、ぼんやり、雨のふるのを眺めていた。

作者はさっき、「下人が雨やみを待っていた」と書いた。しかし、下人は雨がやんでも、格別どうしようと云う当てはない。ふだんなら、勿論、主人の家へ帰る可き筈である。所がその主人からは、四五日前に暇を出された。前にも書いたように、当時京都の町は一通りならず衰微していた。今この下人が、永年、使われていた主人から、暇を出されたのも、実はこの衰微の小さな余波にほかならない。だから「下人が雨やみを待っていた」と云うよりも「雨にふりこめられた下人が、行き所がなくて、途方にくれていた」と云う方が、適当である。その上、今日の空模様も少からず、この平安朝の下人に影響した。申の刻下りからふり出した雨は、いまだに上るけしきがない。そこで、下人

は、何^{なに}をおいても差^さ当^しり明^あ日^すの暮^{くら}しをどうにかしよう
として——云^いわばどうにもならない事^{こと}を、どうにかしよ
うとして、とりとめもない考^{かん}えをたどりながら、さっき
から朱^す雀^{ざく}大^{おお}路^じにふる雨^{あめ}の音^{おと}を、聞^きくともなく聞^きいていたのである。



关键词汇

下人——身分低下的人，这里指家将

丹塗^にり——朱漆，漆或油成朱红色的东西

剥^はげ——脱落，剥落(处)

辻^{つじ}風——台风

荒^あれ果^はてる——荒废、荒凉

足^{あし}ぶみ——踏步，停滞不前

洗^あいざらし——洗褪了色(的衣服)

衰^{おとろ}微——萧条



参考译文

某日傍晚，有一家将，在罗生门下避雨。

宽广的门下，除他以外，没有别人，只在朱漆斑驳的大圆柱上，蹲着一只蟋蟀。罗生门正当朱雀大路，本该有不少戴女笠和乌软帽的男女行人，到这儿来避雨，可是现在却只有他一个。



这是为什么呢，因为这数年来，接连遭了地震、台风、大火、饥馑等几次灾难，京城已格外荒凉了。照那时留下来的记载，还有把佛像、供具打碎，将带有朱漆和镀金的木头堆在路边当柴卖的。京城里的情况如此，像修理罗生门那样的事，当然也无人来管了。在这种荒凉景象中，便有狐狸和强盗来乘机作梗。甚至最后变成了一种习惯，把无主的尸体，扔到门里来了。所以一旦夕阳西下，气象阴森，谁也不上这里来了。

倒是不知从哪里，飞来了许多乌鸦。白天，这些乌鸦成群地在高高的门楼顶空飞翔啼叫，特别是夕阳通红时，黑魆魆的好似在天空撒了黑芝麻，看得分外清楚。当然，它们是到门楼上来啄死人肉的。今天因为时间已晚，一只也见不到，但在倒塌了砖石缝里长着长草的台阶上，还可以看到点点白色的鸟粪。这家将穿着洗旧了的宝蓝袄，一屁股坐在共有七级的最高一层的台阶上，手护着右颊上一个大肿疮，茫然地等雨停下来。

说是这家将在避雨，可是雨停之后，他也想不出要上哪里去。照说应当回主人家去，可是主人在四五天前已把他辞退了。上边提到，当时京城里面正是一片萧条，现在这家将被多年老主人辞退出来，也不外是这萧条的一个小小的余波。所以家将的避雨，说正确一点，便是“被雨淋湿的家将，正无路可走”。而且今天的天气也影响了这位平安朝家将忧郁的心情。从申末下起的雨，到现在还没停下来。家将一边不断地在想明天的日子怎样过？也就是从无法中求办法，一边耳朵里似听非听地听着朱雀大路上的雨声。

2. 孔乙己

孔乙己



孔乙己は、立ち飲み仲間で長衣を着ているただ一人であった。背が恐ろしく高く、青白い顔色をして、しわの間によく生傷の痕があった。ごましおのあごひげをぼうぼうにはやしていた。着ているのは長衣には違いなかったが、汚れてボロボロになっていて、まるで十年以上も繕ったり洗ったりしたことがない